

S015 | シンポジウム 15

【併催学会】 口腔衛生

# 口腔マイクロバイオーム管理から広がる 歯科保健医療の新領域



[モデレーター] <sup>やました よしひさ</sup> 山下 喜久 (九州大学大学院歯学研究院 教授〈口腔予防医学分野〉)

- 略歴● 1982年 九州歯科大学卒業
- 1986年 歯学博士(九州歯科大学大学院)
- 2019年~2021年 日本口腔衛生学会理事長
- 2001年 日本口腔衛生学会学術賞“LION AWARD”受賞



[モデレーター] <sup>あまの あつお</sup> 天野 敦雄 (大阪大学大学院歯学研究科 教授〈予防歯科学教室〉)

- 略歴● 1984年 大阪大学歯学部卒業
- 1990年 歯学博士(大阪大学)
- 2021年 日本口腔衛生学会理事長/2020年 大阪大学賞受賞

S  
シンポジウム

## S015-1 硫化水素産生菌と疾病との関係



<sup>おおげ ひろき</sup> 大毛 宏喜  
(広島大学病院 教授〈感染症科〉)

細菌叢が病因に関与していると考えられてきたが、発症の要因となる特定の細菌は同定できていない。菌種ではなく、特定の物質を産生する菌のグループで検討した結果、硫化水素のような菌の代謝産物が粘膜の炎症に関与している可能性が明らかになってきた。近年の新しい細菌叢解析手法の進歩は、様々な疾患の治療もしくは予防につながる事が期待される。

- 略歴● 1991年 広島大学卒業/2004年 博士(医学)(広島大学)

## S015-2 マイクロバイオームから紐解く 健康科学の近未来



<sup>くにさわ じゅん</sup> 國澤 純  
(医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチン・アジュバント研究センター センター長)

私たちは、健康社会の実現に向けて、次世代シーケンサー、質量分析、イムノーム解析などの様々な先端解析技術を用いて、食事、腸内細菌、腸管免疫が形成する腸内環境と生体応答との関係を解明する研究を行っている。本講演では、基礎研究から創薬や機能性食品開発への応用、さらには層別化栄養・医療の実現などの社会実装まで、口腔領域の研究の可能性と展望も含めて私たちの研究を中心に紹介したいと思う。

- 略歴● 1996年 大阪大学卒業/2001年 博士(薬学)(大阪大学)

## S015-3 口腸連関を基盤とした歯周疾患 と全身疾患の関連



<sup>やまざき かずひさ</sup> 山崎 和久  
(理化学研究所 生命医科学研究センター・  
粘膜システム研究チーム 客員主管研究員)

歯周炎は糖尿病、心筋梗塞、関節リウマチなど口腔外疾患の発症・進行リスクを高めることが多くのエビデンスにより明らかにされている。因果メカニズムとして炎症菌周組織を起点とする菌(内毒素)血症・炎症性サイトカインの全身循環への流入が有力視されてきたが、近年口腔細菌による腸内細菌叢のディスバイオーシス誘導が注目されている。我々の研究データおよび文献に基づき口腸連関の健康に及ぼす影響について紹介したい。

- 略歴● 1980年 神奈川歯科大学卒業/1985年 歯学博士(新潟大学)/2016年 IADR Distinguished Scientist Award

\* \* \*